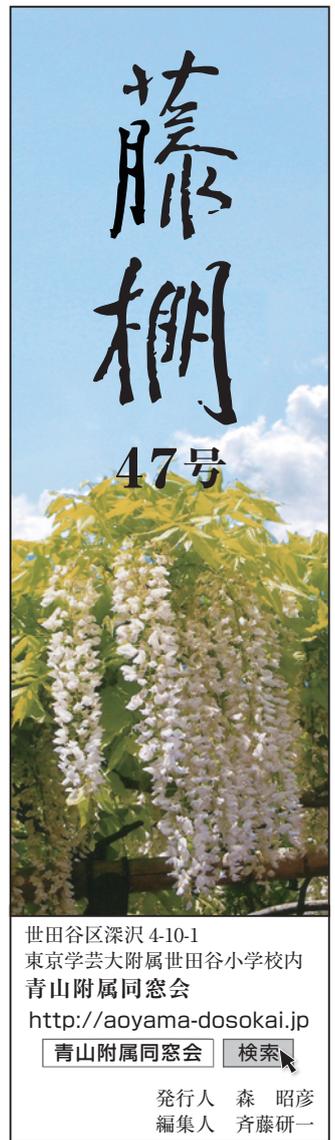


藤棚

47号

百四十年を迎える附属小学校

幹事長 森 昭彦



世田谷区深沢 4-10-1
東京学芸大附属世田谷小学校内
青山附属同窓会
<http://aoyama-dosokai.jp>

青山附属同窓会

検索

発行人 森 昭彦
編集人 斉藤研一

附属小学校は来年三月で創立百四十年を迎えます。今年には戦後七十年ですので、我が母校は、戦前と戦後を半々に過ごしたことになります。

母校は、維新の直後で世の中はまだ安定せず不平士族の反乱が頻発し、翌年には西南戦争が起きるといって明治九年(一八七六年)に開校していま

す。母校の開校の事情、創立以来どのような教育研究、実践がなされてきたのかについては五十年前に発行された創立九十周年記念誌「わが校九十年の歩み」(昭和四一年)に詳しく記述されています。これによると、明治五年の学制公布による小学教育の義務化に伴い小学校の教員を急ぎ養成

する必要に迫られた東京府が明治六年に現在の千代田区内幸町の地に設けた「教則講習所」が、明治九年に東京府小学師範学校となり、同年三月十日に附属小学校が開校されました。これが本校の誕生日です。

我が母校は、師範学校の附属小学校であるため、創立当初から師範生徒の教育実習の場であるだけでなくさまざまな教育方法の研究を行っています。いくつかの例を挙げます。

例えば、明治三十七年にはかけ算の総九九の研究(それまでは三×四も四×三も三・四・十二と唱えていのを後者は四・三・十二と唱えること)を開始し、算数教育に一大進歩

をもたらしています。大正にはいると、クレヨン画の導入を図り教育用クレヨンの開発の研究まで行われ、日本の図画教育に決定的な貢献をしています。音楽教育においても、児童の発声法についての先駆的な研究や、唱歌における合唱の導入の先鞭を付けています。また、運動会がかぶる赤白帽や赤白の鉢巻きも本校から全国に広がったものだそうです。学校体育に一大変革をもたらしした体育ダンスの導入も我が校の研究がもとになっ

ていっているそうです。百四十年の歴史の前半を瞥見するだけでも、今では当たり前前になっっている事柄が私達の恩師の研究の賜物であること、そして戦後七十年もその伝統を脈々と受け継ぎ、現実に即したさまざまな研究成果をあげている我が母校を本当に誇らしく思う次第です。

懇親会 2015、140周年記念祭のご案内

同窓会では、下記の通り懇親会と140周年記念祭を開催いたしますので、皆様、ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。なお、詳細は、同封しました別紙をご参照ください。

懇親会 2015

日時：平成27年10月31日(土)
13:00~15:30 (受付 12:00~)

会場：水交会「クラブ水交」
渋谷区神宮前1-5-3
電話 03-3403-2611

交通：JR原宿駅、東京メトロ千代田線・明治神宮前(原宿)駅 いずれも駅から徒歩5分

会費：社会人8,000円/学生4,000円

申し込み：同封した「懇親会2015へのお誘い」チラシをご覧ください

140周年記念祭

日時：平成28年3月26日(土)
10:30~15:00(予定)

会場：東京学芸大学附属世田谷小学校
世田谷区深沢4-10-1

会費：4,000円*/中・高校生3,000円
(*懇親会2015の参加者は、割引を検討中!)

申し込み：12月頃にあらかじめ同窓会よりご案内申し上げます。詳しい内容は随時同窓会HPに掲載していく予定です。

同窓会HP <http://www.aoyama-dosokai.jp>



いつも附属小学校の教育に温かいご支援をいただきありがとうございます。近況をお知らせいたします。

【先生の異動】

☆お送りした先生

▽木村翔太先生

本校教諭として三年間の在職でした。

ご専門は体育科教育です。小学校教員としての本格的なスタートは本校でした。

子どもたちからは「キムチ」という愛称で親しまれていましたが、話をよく聞き、ともに考え、問題には誠意をもって対応する姿勢は、子どもだけでなく保護者や同僚からも信頼されていました。また、若い先生ならではの旺盛な好奇心と行動力は、学びつづける教師の姿を体現していて今後を大いに期待させるもので

した。

生活実践部に所属し、子どもの学校生活全体に目配りを行いながら代表委員会活動などの指導に当たられました。

多彩な趣味嗜好をお持ちでした。例えばバスケットボール。あるいは棒を器用に操りながらの芝刈り。ドラム演奏。

さらに、身につける物の多くは橙色等々。

陽気で気さくな性格は新天地でも愛されるに違いありません。ますますのご活躍をお祈りしています。

【学校のよひな】

運動会が五月二十三日に開催されました。天候に恵まれ、延べ二〇〇〇人を超える方々に来場いただき大盛況の内に終えることができました。多くの卒業生が来校され、懐かしい顔を見せてくれました。

時代とともに運動会もその形を少しずつ変えています。「子どもとともにつくる運動会」が本校の特色です。その理念は運動会の様々な場面で形となって表現されています。

今年度は創立一四〇周年ということで、演技の中にも工夫を凝らした内容が目立ち、祝意を込めた表現活動も見られました。そのすべてにおいて参加する子どもたちの発想や願いが反映されています。ただし、唯一変わらないのは子どもたちの一生懸命な姿です。



▲おそろいの記念Tシャツで奮闘

▶ 中学年伝統種目



追悼 福西武子先生

福西（旧姓島内）先生は二〇一四年十二月一〇日に急逝されました。

先生は一九四五年の附属小学校卒業生です。養護教員として最初は附属世田谷中学校に次いで、一九六三年から一九八〇年までわが附属小学校に勤務されました。附小赴任以来、先生は同窓生ということで再建されたばかりの同窓会の諸雑務を引き受けることとなり、翌六四年には常任幹事となり、附小在職中は保健室がいわば同窓会事務局になっていました。

爾後昨年七月迄長らく常任幹事として同窓会事務に当たっておられ、まさに同窓会の生き字引とも言うべき存在でした。常任幹事退任後も毎月の同窓会事務日には決まって顔を出され事務を手伝って下さいました。

先生の世話好きで優しいお人柄は多くの方に慕われ、退職後は民生委員をされ、また地域の諸活動にも積極的に参加されておられたと伺っています。

ここに謹んで哀悼の意をささげたいと思います。（文責・森）

恩師近況

現在、中学生・高校生となっている同窓生（二〇一〇年〜二〇一五年卒業）の卒業担任の先生方の近況報告です。来年三月に開催される一四〇周年記念イベントの時に、先生にもお声を掛けて、クラス会を開催されてみてはいかがですか！お忙しい中、文章をお寄せ下さった先生方、ありがとうございました。

岸野在宏先生

（二〇一〇年卒2組）

世小に来て十二年目になります。最近変わったと思つことは、自分のかかわった卒業生が学校を訪ねてくれたり、教育実習に來たりすることです。赴任した当時、先輩達が訪ねてきた卒業生とのしく話していたのを思い出し、自分もそういう立場になったのだなと実感しています。

内田雄三先生

（二〇一〇年卒3組）

ご無沙汰しております。二十三年間お世話になり、二〇一一年より白鷗大学（栃木県小山市）で小学校および中高保健体育科教員の養成にあたりています。世小で学んだ多くのことを学生に伝え、社会から信頼される有為な教員を育ててい

きたいと日々頑張っているところです。相変わらず元気ですよ！

福田淳佑先生

（二〇一二年卒1組／二〇一三年卒2組）

私は、昨年度より東京学芸大学附属小金井小学校に異動となりました。今年度は、二年生の担任をしています。元気な三十五人の子どもたちと、私も元気に過ごしています。今、子どもたちとジャガイモを育てています。観察や世話をしながら、収穫を楽しみにしています。

井上陽童先生

（二〇一二年卒3組）

平成二十二年卒業生を担任しました井上陽童です。彼らも今や高校二年生！きつと素敵に成長していることでしょう。私は現在、立川市立新生小

学校で五年生を担任しています。世田谷小で学んだことを生かして、「夢を叶える・学び続けるクラス」の実現に向けて頑張っています！

松本大介先生

（二〇一二年卒1組）

品川区立小山小学校から3年ぶりに附属世田谷小学校にもどってきました。現在は、5年生の担任として子どもたちと楽しく学校生活を送っています。5月の運動会では、卒業生と再会することができ嬉しかったです。卒業生と埋めたタイムカプセルを開ける日を楽しみにしています。

村田正之先生

（二〇一二年卒2組）

東京に生まれ育った私は今、縁もゆかりもない陸前高田で仙人暮らしをしています。三陸の海から車で十五分、沢沿いで、この先に人家無しの場所です。友人は、鹿とカモシカと鳥と風。TVも新聞もほとんど目にしない日々です。まだ六十三過ぎ、しつかりと生きております。ご心配なく。

羽仁克嘉先生

（二〇一二年卒3組）

世田谷小学校から異動した、港区の麻布小学校は、東京タワーや六本木が学区域というような学校でした。そこから今年度より、大田区の南蒲小学校へ移動しました。自宅から徒歩一〇分、驚きです。環境は違いますが、同じく、「自分たちの生活は自分たちでつくる」ことを目指しています。

辛阪創平先生

（二〇一三年卒1組）

世小にきてから五年目になります。一四〇周年という節目の年にここにいられることを改めて幸せに思う今日この頃。今年度は、一年生の担任です。元氣いっぱいの子どもたちと学校生活を共に過ごしています。最近、藤が池やひょうたん池でヤゴの餌のボウフラを頻繁に取りに行っています。

宮田浩行先生

（二〇一四年卒2組）

小学校の教員になって初めての中学年担任。日頃自分より小さな子どもたちと関わっている

訃報

上田幸男先生（一九五五年九月〜一九七六年三月在職）は去る八月九日逝去されました。享年85歳でした。謹んでご報告いたします。先生のご功績の一端は、藤棚41号（二〇〇九年）にご自身が書かれた記事からもうかがい知れます。

と、成長した中学生に出会ってびっくりします。「いつ身長がぬかされるかな」小学生の時分には気にもしなかったドキドキを味わっています。一回一回成長したみなさんと会う機会が楽しみです。

栗田辰一朗先生

（二〇一五年卒1組）

六年担任から一年担任となり、小学校の出口から入り口へと大きな変化を楽しんでいます。しかし、変わらないのは、一生懸命な子どもたちとつくるたのしい授業です。すてきな大人への成長を支えられるよう、日々、目の前の子どもたちのことを考え、最善を尽くしています。

青山荘開放のご報告

二〇一四年十一月二十九日
(土)、二〇一五年一月二十四日
(二十五日(土・日)の計三日間、
同窓会主催で青山荘の開放イベ
ントを開催しました。

十一月は大雨の中約十五名、
一月は二日間で約二〇名の卒業
生・ご家族が参加されました。

七十代の方から現役の中学生
まで。同じ学年の方たちはもち
ろん、学年を超えたグループま
で、さまざまな卒業生が青山荘

そして千倉の町の思い出を振り
返りながら、親元や世田谷の校
舎を離れて過ごした「校舎」を
思い思いに見て回りました。若
い世代は、臨海学校の記念に
作った自分たちの作品が残って
いることに驚き、旧青山荘世
代は、「お化けが出そうだった」
という昔の青山荘との対比を驚
いていました。

一月は宿泊も募集し、高校生
を含む七人が集まりました。大
人は夜(朝)までビールを片手
に臨海学校の思い出を語りまし
た。食事は管理人の奥田さん夫
妻が、最近(中止直前)の臨海
学校でのメニューを再現してく
ださいました。夜はカレー、朝
は魚の開きと味噌汁、いずれも
遠泳に備えたボリリュームある食
事でした。

私は何度か事前準備のため
に千倉へ赴きました。そのと
き、地元の南房総市役所や観光
協会、近隣にお住まいの皆さん
が誰一人例外なく口をそろえて
おっしゃっていたのは、「私た
ちの町に附属の子どもたちが来
なくなつて寂しい。」というこ
とでした。このような関係を築
いてこられたのも、学校自前の

施設を持つて長
年行事を続けて
きたからにはか
なりません。

臨海学校を中
止せざるを得な
かったのは、津
波災害に対する



考え方が保護者の間でまとも
なかつたためと聞いています。
しかし、青山荘周辺は多くの入
が暮らす住宅街であり、新旧の
住民一同で定期的に避難訓練を
行つたなど、海との共存を図つて
います。他の附属では、南房総
での臨海学校を続けているとも
聞きます。

臨海学校で私たちが得た経験
は、他に代えがたいものです。

附属の伝統だった臨海学校
を、このような形で失うのは

あまりにも惜しく、今からでも
再開に向けて考え直してほしい
と、願わずにはいられません。

(文責・野口)

思い出の青山荘へ

平成十一年卒 朝比奈和音

「青山荘をつづける会」で
す。前号の「藤棚」におい
て当会のチラシを同封いたし
ました。チラシでは思い出の
青山荘を残すべく、寄付の呼
びかけをさせていただきまし
た。多くの同窓生の方々から、
温かいお言葉と多大なるご芳
志を賜りました。寄付金の合
計は744,000円(平成
二十七年五月現在)です。ご
報告とともに、重ね重ね、心
より感謝申し上げます。

また、当会とは別個の取り
組みとして、青山附属同窓会
様から青山荘開放のお知らせ
もあつたことから、寄付の呼
びかけと混同されている方も
いらつしやいました。この場
をお借りしてお詫び申し上げ
ます。

さて、当会は平成二十六年
八月に活動をスタートさせま
した。活動を始めるきっかけ
は、多くの同窓生が知らない
まま、青山荘が閉鎖されてし
まうのではないかと危惧した
からです。夏、子供たちの笑
い声で溢れた青山荘を寂しく

終わらせることなど悲しく、
嫌だ！そんな想いで周知活動
や青山荘を管理されている青
山会(P.T.A)との話し合い
等を経て参りました。その
活動の中で七〇代の卒業生の
方から嬉しいご連絡をいただ
きました。「先日、思い出立って
青山荘を見に行きました。正
確な住所は分かりませんでした。
たが、千倉駅からタクシーに
乗り、青山荘の名前を告げる
とすぐに連れて行ってくれま
した。今の青山荘の建物は私
が在学していた当時のもので
はありませんが、どことなく
懐かしさを感じ、胸に込み上
げるものがありました。実際
に目で見ることで思い出が甦
るものですね。」

青山荘を取り巻く状況は厳
しいのですが、一人でも多
くの同窓生の方に千倉まで足
を運んでもらい、思い出に浸つ
てもらえたらと考えています。
今夏、一定期間宿泊もできる
開放を計画しています。青山
荘がなくなるその日まで、活
動を続けていきます。

青山会からのご報告 青山会理事長 白川 尚樹

拝啓 初秋の候、ご卒業生の皆様におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

ご存知の方も大勢いらっしゃると思いますが、青山荘の運営を停止して一年半になりますので、現在の青山荘についてご報告させていただきます。

青山会（PTA）では、一昨年の十二月の臨時総会の決議により、学校が行事等で使用しないと決めた青山荘への資金支出を停止することになりました。

この決議を受け可能な限り現状の青山荘を維持して頂ける方を探しておりますが、なかなか売却先が見つからず困っていたところに、同窓生でいらつしやる勝田久昭さんがご協力をして下さいということで、勝田さんが役員をされている会社の不動産部門の役員の方にお願いをして、売却先を探して頂きました。

このままでは建物はなくなってしまうのですが、思い出は皆様の中に永遠に残り続けて貰いたいと思っております。

団体よりお問い合わせがあり、私も出来る限り同行して打合せを致しましたが、帯に短し襷に長しということで、なかなか決まりません。

このような状況の中、残念ながら青山会理事会では、今年度中に売却先が見つからない場合には取り壊すことを決定致しました。

取り壊して更地にするのに数千万円の出費となりますが、現在売却先の選定の為に、年間五百万程の最低限の維持費を青山会より負担しており、このような状況を同窓生の皆様にもご理解頂きたいと存じます。

残り時間は少ないですが、私自身も卒業生でありますので、建物が残るように努力させて頂いております。

最後に、この会報がお手元に届くころには終わっておりますが、最後の夏の青山荘開放は盛況だったことだと思っております。

このままでは建物はなくなってしまうのですが、思い出は皆様の中に永遠に残り続けて貰いたいと思っております。



青山荘・宮脇俊三・その他 昭和五十四年卒 岡田 幸男

亡き父が「これ、ひよっとして青山荘のことじゃないか？」と宮脇俊三氏の『最長片道切符の旅』（新潮社、一九七九年）を開いて見せに来たのは二〇年ほど前のことでした。「千倉には私が小学校時代に三回来たことのある海の家があり、……建てなおされて、四〇年の昔を思い出させてくれるものはなかったが……」云々。調べたところ、宮脇氏は青山師範附属の卒業生でした（昭和十四年男一組）。

実は私、中学時分に『時刻表2万キロ』を読み、いつか自分もと旅を続けて、一九九八年に国鉄↓JR全線各駅停車で完乗達成したのですが、父が教えてくれたこの日まで、宮脇氏が小学校の大先輩であらせられるとは知らずにいました。

父と青山荘と言えば、「移動教室以外の時期は家族で

利用できる」というのを聞いて、青山荘を利用した房総への家族旅行へ連れて行ってくれたのは、私が五年生に在学していた一九七七年八月の終りのこと。利用したのは食堂二階部分の部屋で、その時に初めて「食堂の階段を上がる」と客室がある」と知って驚いた記憶があります。また、この旅行で立ち寄った鴨川シーワールドが面白かったため、一九七九年卒業の春、クラス全員で青山荘へのお別れ旅行会を催した際、私が音頭を取って鴨川シーワールドオプショナルツアー(?)を企画したのもいい思い出です。

移動教室最後の夜、いつもは無声音で会話することをルールとしていた夕食時に「今夜は最後だから、普通に（声を出して）話していいよ！」と先生が言って下さり、みんなが「やったー！」と叫んだ

こと。手伝いに来ていたOBの大学生が教えてくれた、その大学生が小学生だった頃の「臨海学校の時、夜な夜な聞こえてきたジャラジャラ・カチャカチャという謎の音」という怪談（先生たちが麻雀をしてる音だったというオチ）。同じく大学生が教えてくれた「ラジオ体操第3」（実はカルメン77の振り付け）。OBも利用可能ということを知り、今度は娘たちを鴨川シーワールドへ連れて行くために一泊させていただいた五年前の訪問。思い出は尽きず紙面が尽きました。



宮脇俊三『最長片道切符の旅』（新潮文庫、1983年）

「〇〇の時間」

元教諭 次山信男

私は、公立小学校教諭四年を経て、昭和三十七年四月から十五年間、附属世田谷小学校で過ごさせていただきました。

*

附属に就任した年の一学期に、三年生のクラスで最初の社会科の研究授業を行いました。先生方の前で張り切りすぎたのでしょうか、授業後の研究会で、ある先生から「君の声は大きすぎる!」と注意されました。「授業者の声が小さい!」という注意はよく聞いていましたので、「はてな?」と思いました。

同じ年の二学期に、再び研究授業の機会がめぐってきま



した。そこで、ここでは私の問いかけに、子どもたちが一人ずつ私の耳元に来て答えるという「ないしょばなし」をしていくことにしたのです。

何を話しているのか、他の子どもたちにも、參觀されている先生方にもわかりません。五人ほど「ないしょばなし」が進んだところで、それを黒板に整理し、授業を進めたのです。研究会では、この「声の大きい小さい」の話は出ませんでしたが、以後、私は、この「ないしょばなし」を、授業の大切な「技」の一つにしていきました。

附属世田谷小学校を退いた後、私は学芸大学に移りますが、大学の定年を迎えた年の三月に、当時併任しておりました附属竹早小学校長としての最後の授業を、四年生の教室で、この「ないしょばなし」で締めくくったのです。

*

私の手元に四冊のガリ版刷りの「学級だより」があります。



附属世田谷小学校で担任した一〜三年、五〜六年、五〜六年、一〜三・六年の、子どもたちと私との記録です。

「四月九日の入学式から二週間が過ぎました。まだ一人一人の名前と顔が一致いたしません。でも、H君やO君などは、翌日にはすっかり覚えることができました。活発に活動する子、消極的な子、おしゃべりな子、生真面目な子、一人ひとりそれぞれの特徴をもっているようです。これからの一年間、一年生として、一人ひとりのよい特性を伸ばしつつ、楽しく、愉快に、元気に過ごしていきたいと思っています。

さて、この「学級だより」は、学級に起こった諸々の出来事を題材にし、話し合いの場にしたいたいと考え、発行すること

にしました。呑気で、粗忽で、無頓着の担任ですから、定期にはならないと思いますが、ご期待下さい。」(「学級だより 一の三・第一号」昭和三八年四月二二日)

放課後、静かになった教室で、その日に子どもたちが書いたノートや作文を読むことは、私の楽しみの一つでした。

教室には誰もいないはずなのに、その時には子どもたちが一人ずつ必ず現れて私に話しかけます。ある時はやさしく、楽しく、そして、ある時には鋭く、激しく語りかけるのです。最後の子どもが私の前から消えると、決まったように私は鉄筆を握ってガリ版に向い、子どもたちのノートや作文の中から何篇かを「学級だより」に紹介しました。それは、私と子どもたちだけとの語りだけでなく、子どもたちを取り巻くいろいろなたちを含めた語らいにしなければ、一つ一つの作文に秘められた子どもたちの実りが、何もつたないないように感じたからです。

*

附属世田谷小学校での最後の四年間は、「〇〇の時間」の研究でした。全国に向けて発表したテーマは、「子どもが生き、教師も生きる、〇〇の時間」ですが、ふり返って、この研究でとくに主張したことは「教師も生きる」ということではなかったでしょうか。

学校では「子どもを生かす」ことを考えて事を進めていきます。それは大切なことですが、「子どもを生かす教師」についてあまりにも目を向けなさが、生きるように思うのです。教師が生きることをなくして、どうして子どもが生きることできるでしょうか。家庭においても全く同じことが言えるでしょう。子どもは親の生きざまに学んでいるはずですが。

今、子どもたちと歩んだ附属の生活をふり返ってみると、私は、はじめから「〇〇の時間」だけを過ごしてきたように思うのです。「君の声は大きすぎる!」も、「四冊の学級だより」も、すべて子どもたちと私の「〇〇の時間」の足跡なのです。

伴先生を囲んで藤樹会を開きました

昭和四十一年卒二組

私たちは、昭和四十一年卒業の二組で、伴先生に藤樹と名付けていただきました。四年のときに豊島小学校からの転入メンバーが加わり、途中転出メンバーも交えて総勢五十二名です。

藤樹のクラス会は、卒業後、大学に通い始めた頃に一度開いた以降、勤めている時代は数えるほどしか開くことはありませんでしたが、約五年前に久しぶりに開いた以降は、二年毎に集まっています。

二年前は、ちょうど伴先生の米寿と私たちの還暦とを同時に祝う会を開き、二十七名が参加して大いに盛り上がりました。そして、今年も十五名が集まり、伴先生の卒寿のお祝いを行いました。八十八歳に続いて九〇歳のデザートプレートのお祝いメッセージを、先生はことのほかお喜び下さいました。

伴先生は、お元気で、タイの日本人学校設立時の事や、国分寺・国分尼寺の研究で日本中を旅された事など、昔はお聞きすることのなかったお話を伺いました。

今回は、小学校の音楽の時間と同じように、小林君が校歌のピアノ伴奏を録音したCDを持参してくれたので、全員で合唱し、その時のビデオをその他の写真とともに、インターネットの藤樹会のサイトにアップしました。直前に心臓手術をした敷内君が元気な姿を見せてくれましたが、残念ながら前回参加した二名が体を悪くして参加できませんでした。是非回復されて、またクラス会に参加してもらえらることを心から願っています。

参加者の近況報告も、親の介護や定年後の予定など様々でしたが、藤樹会の全員がいつまでも健康でいられるよう、また伴先生にはいつまでもお元気で参加していただけるように願いつつ散会しました。

毎月第二金曜日の夜は、南青山に有志が集まって飲み会をやっていますので、クラス会に参加できなかった方も是非顔を出してください。楽しいですよ。

二〇一五年幹事一同、
町田、篠原、中野、岩田

(女性は旧姓)



クラス会開催の報告記事を募集しています！
掲載を希望するクラスは、ハガキかメールで、
同窓会までご一報ください。
後日、折り返しご連絡いたします。

同窓会メールアドレス

aoyama-dosokai@edit.ne.jp

懇親会・一四〇周年記念祭へのお誘い

同窓生の皆さまにおかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、別紙にご案内のように同窓会は恒例の懇親会を本年十月三十一日に水交会で開催します。この会は、本来ならば昨年開催するところを周年行事にあわせて今年実施するものです。東郷神社の庭園風景を楽しむにされている方も多いと思います。どうか、旧交を温めにお集まりください。

また、同窓会は、創立一四〇周年記念祭を、来年三月二十六日に附属世田谷小学校にて開催します。歴代の恩師の先生をお招きし、なるべく多くの卒業生にお集まりいただいて母校のお祝いを盛り上げたいと思います。特に、若手の卒業生にも参加しやすいように、記念祭を企画するリーダーは、中学三年生の日野真毅君にお願いしました。青山附属同窓会史



上初の中学生プロデュースによる記念祭になります。

そもそも、同窓会は、顔なじみばかりのクラス会や同期会とは異なり、世代を超えて絆をもてる輝きを秘めております。かつて、九〇周年行事の時、昭和天皇皇后両陛下の面前で授業を受けた私と、今では、両陛下を歴史の教科書でしか見たことがない日野君。年齢差約四十五年の二人が手を携えて一緒に開催すると、果たしてどのような輝きを持つ一四〇周年記念祭になるのでしょうか。どうか皆様、ご自分の眼で確かめにお越しください。(実行委員長・鈴木)

鈴木秀太郎・東日本大震災復興支援コンサートのお知らせ

米国在住の鈴木秀太郎氏(S25年卒)は東日本大震災に想いを馳せ、5年目に当たる2016年に復興支援チャリティコンサートの開催を提案されました。附中4回生の有志が実行委員会を組織して企画しています。

2016年3月11日(金)銀座王子ホール、18:30開演
 出演：鈴木秀太郎(ヴァイオリン)、セイダ・ルガ・鈴木(ピアノ)、進藤桃子(ピアノ)、チケット3500円
 曲目は、フランク作曲ヴァイオリンソナタ・イ長調、ほか。
 <略歴>

鈴木秀太郎(ヴァイオリン・指揮) 学芸大附属世田谷小学校(昭和25年卒)、附属中学校を経て桐朋学園高校音楽科、米国カーチス音楽院に学ぶ。この間、日本全国音楽コンクール大賞、チャイコフスキー国際コンクール、エリザベト女王国際コンクールなど数々の受賞、ケベック州立音楽院教授、インディアナポリス交響楽団コンサートマスター、指揮者を務める。欧米、日本の

多くの交響楽団と協演、日本の学生を対象とする音楽演奏、病院のチャリティコンサートも数多い。

進藤桃子(ピアノ) 附属世田谷小学校(S52年卒)、附属中学校を経て、東京芸大ピアノ科卒、ブリュッセル音楽院プルミエ・プリ最優秀受賞、アントワープ市コンクール第1位、国立大付属中、付属高講師。

セイダ・ルガ・鈴木(ピアノ) 鈴木秀太郎氏夫人、ハバナ音楽院卒、米国カーチス音楽院で学ぶ。カナダラヴァール大学教授、CBC放送交響楽団、東響、札響等多数と協演、室内楽団「鈴木アンドフレンズ」のメンバーとして各地で活動。

ご参加・ご支援いただける方は、実行委員会代表、
 酒井忠昭(25年卒、附中4回生) YQL05024@nifty.com
 電話090-4727-5249、住所154-0017世田谷区世田谷3-22-14
 にご連絡下さい。秋にはチラシをお送りします。

平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)青山附属同窓会 会計報告

2. 経常会計(単位:円)

収入	金額	支出	金額
前年度より繰り越し	13,243,086	藤棚印刷・発送費	457,489
		卒業生名簿印刷	0
会費(既会員入金分) 97名	485,000	回線使用料	66,263
寄付金	0	データ管理費	250,338
会費(新卒入会金) 118名	1,180,000	事務手数料	203,917
		通信費	23,961
銀行利息	1,166	事務用品費	129,045
		慶弔費	11,340
		交際費	18,709
		会議費	8,524
		交通費	400
		振込手数料	16,942
平成24年度収入合計	1,666,166	会費返金(二重払い)1名分	5,000
		支払保険料(千倉イベント保険)	5,000
		本年度支出計	1,196,928
		次年度へ繰越	13,712,324
合計	14,909,252	合計	14,909,252

1. 同窓会基金(単位:円)

収入	金額
前年度より繰り越し	3,301,711
銀行利息	788
合計	3,302,499

3. 資産の部(単位:円)

明細	金額
同窓会基金分	
三菱UFJ信託銀行	3,302,499
合計	3,302,499
経常会計分	
三井住友銀行	7,969,511
ゆうちょ銀行	5,663,706
現金	79,107
合計	13,712,324
基金+経常会計合計	17,014,823

会計:岡市 典子、瓶子 可南子 監事:吉原 重和、松本 洋典

監査報告:帳簿類、会計報告書を監査の結果、適性であることを認めます。 監事:吉原 重和 印 松本 洋典 印

◆ 本年度の同窓会役員

- 会長 庭山正一郎(昭和三十三年)
- 幹事長 森 昭彦(〃三〇年)
- 会計監事 吉原重和(〃三五年)
- 松本洋典(平成八年)
- 常任幹事 小野聖穂(昭和二十九年)
- 古川一郎(〃三一年)
- 幣原 廣(〃三七年)
- 木下智子(〃四〇年)
- 鈴木淳生(〃四三年)
- 浅尾博之(〃四五年)
- 一力健一郎(〃五〇年)
- 岡市典子(〃五三年)
- 斉藤研一(〃五四年)
- 野口尚志(〃六三年)
- 瓶子可南子(平成八年)
- 小倉実咲(〃二一年)
- 日野真毅(〃二五年)

!

同窓会ホームページのアドレスをご確認ください!

<http://aoyama-dosokai.jp>

(旧 <http://www.u-gakugei.ac.jp/~doso/>)
 ブックマーク・お気に入り登録の変更をお願いいたします。

青山附属同窓会ホームページ <http://aoyama-dosokai.jp>

青山附属同窓会 検索